

耳川水系総合土砂管理に関する評価・改善委員会
第10回 山地・ダム・河道・河口海岸領域ワーキンググループ
問題・課題総合評価シート及び「耳川通信簿」

目 次

○問題・課題評価シート【山地領域】	1
○問題・課題評価シート【ダム領域】	2
○問題・課題評価シート【河道領域】	3
○問題・課題評価シート【河口・海岸領域】	4
○「耳川通信簿」耳川流域全体（令和3年度）	5

令和4年3月17日

問題・課題評価シート【山地領域】

領域	総合土砂管理上の問題・課題	モニタリング項目	説明頁	主従関係	ワーキング時点での事務局案			ワーキンググループの評価				
					評価結果の概要	個別評価		総合評価	事務局案に対する意見等	個別評価※1		評価※2
						方向性	状態			方向性	状態	
山地領域	(1)崩壊地からの土砂流出	11.裸地面積	3	主	崩壊地は、至近3年間と比較すると「維持傾向」と評価される。基準年と比較すると、「良い状態」と評価される。	B	a	△	【山地領域目標】 森林保全や治山・砂防の推進により、土砂・流木の流出制御を目指す。 【評価コメント】 令和3年度は、土砂災害発生件数、ヒアリング(産業基盤の流出)で「悪化傾向」、ヒアリング(崩壊地からの土砂流出、産業基盤の流出)で「悪い状態」の評価があったが、その他の項目で概ね「普通状態」が維持されていることから、山地領域は総合的に「△」と評価される。			
		12.ダム堆砂	5	主	ダム堆砂は、至近3年間と比較すると「維持傾向」と評価される。基準年と比較すると「普通状態」と評価される。	B	b					
		5.河道縦横断	7	主	対象箇所全体の河積変化率は、至近3年間の変動幅内であるため「維持傾向」と評価される。基準年と比較すると、「普通状態」と評価される。	B	b					
		25.土砂除去量(河道・河口海岸)	14	主	令和3年度は、至近3年間の変動幅の範囲内にあるため「維持傾向」と評価される。基準年と比較すると、「普通状態」と評価される。	B	b					
		30.ヒアリング	15		複数の森林管理者から「維持傾向」の回答、一部の森林組合から「悪い状態」の回答を得た。	B	c					
	(2)土石流等の土砂災害の発生	14.土石流危険渓流整備(土砂災害発生状況)	18		土砂災害発生件数は至近3年間(平成29年度～令和元年度)と比較すると「悪化傾向」と評価される。基準年と比較すると「普通状態」と評価される。(参考:令和2年度評価)	C	b	×				
		15.保安施設整備(土砂災害発生状況)	18									
	(3)自然景観の消失	17.写真観測(自然景観)	21		大規模崩壊跡地は、至近3年間の変動幅を下回ることから「改善傾向」と評価される。森林管理者ヒアリングにおいて「良い状態」の回答を得た。	A	a	○				
		17.写真観測(親水景観)	21		山地の親水景観は、前年度と比較して大きな変化はなく、「維持傾向」と評価される。親水景観評価シートによると「良い状態」と評価される。	B	a					
		30.ヒアリング	28		山地の自然景観の方向性は、「維持傾向」との回答があった。自然景観の状態は、「良い状態」の回答を得た。	B	a					
	(4)生物生息生育環境の変化	30.ヒアリング	31		生物生息生育環境の方向性は、森林管理者のヒアリング結果から、「維持傾向」と評価される。状態は「普通状態」と評価される。	B	b	△				
	(5)産業基盤の流出	11.裸地面積	34		崩壊地は、至近3年間と比較すると「維持傾向」と評価される。基準年と比較すると、「良い状態」と評価される。	B	a	△				
		27.流木処理実績	35		令和2年度は、至近3年間の変動幅の範囲内にあることから「維持傾向」と評価される。基準年と比較すると「良い状態」と評価される。(参考:令和2年度評価)	B	a					
		26.漂着物量(河道・河口海岸)	36		令和3年度は、至近3年間の変動幅の範囲内にあることから「維持傾向」と評価される。漁協ヒアリングにおいて「普通状態」の回答を得た。	B	b					
16.路網密度		37		路網密度は、微増ではあるが「改善傾向」である。状態は、『第7次宮崎県森林・林業長期計画』令和2年度目標値を上回っていることから「良い状態」と評価される。(参考:令和2年度評価)	A	a						
30.ヒアリング		38		山林、作業道の管理状況は、「悪化傾向」及び「悪い状態」と評価される。	C	c						
(6)濁水緩和機能の低下	13.流況	41		濁水緩和機能は、流況分析の結果、「維持傾向」及び「普通状態」と評価される。	B	b	△					
(7)洪水緩和機能の低下	13.流況	41		洪水緩和機能は、流況分析の結果、「維持傾向」及び「普通状態」と評価される。	B	b	△					
(8)砂防施設容量減少	23.写真観測(砂防施設)	50		砂防施設容量は、十分確保されている状態が維持されており、「維持傾向」及び「良い状態」と評価される。	B	a	○					

着色凡例

	: 治水面 (防災面)
	: 利水面 (水利用面)
	: 環境面

個別評価凡例

【方向性】 A : 改善傾向, B : 維持傾向, C : 悪化傾向
 【状態】 a : 良い状態, b : 普通状態, c : 悪い状態

評価凡例

○ : 問題なく良いレベル
 △ : 普通のレベル
 × : 問題があり悪いレベル

※1 ワーキングでの個別評価を、評価・改善委員会での事務局案とする。
 ※2 ワーキングでの問題・課題に対する評価を、評価・改善委員会での事務局案とする。

問題・課題評価シート【ダム領域】

領域	総合土砂管理上の問題・課題	モニタリング項目	説明頁	主従関係	ワーキング時点での事務局案			ワーキンググループの評価						
					評価結果の概要	個別評価		総合評価	事務局案に対する意見等	個別評価※1		評価※2		
						方向性	状態			方向性	状態			
ダム領域	(9)貯水池末端部治水安全度低下	12.ダム堆砂	2		ダム貯水池末端部の河床高は、至近3年間と比較すると、「維持傾向」と評価される。状態は、背水の影響はみられないことから、「普通状態」と評価される。	B	b	△						
	(10)利水容量の減少	12.ダム堆砂	13		利水容量内の堆砂は、至近3年間と比較すると、「維持傾向」と評価される。基準年と比較すると、「普通状態」と評価される。	B	b	△						
	(11)取水口の埋没	12.ダム堆砂	20		取水口付近の河床高は、至近3年間と比較すると、「維持傾向」と評価される。基準年と比較すると、「普通状態」と評価される。	B	b	△						
	(12)放流設備の機能障害	27.流木処理実績	27		令和2年度は、至近3年間の変動幅の範囲内にあることから「維持傾向」と評価される。基準年と比較すると「良い状態」と評価される。(参考:令和2年度評価)	B	a	○	【ダム領域目標】 土砂移動の連続性を回復させ、ダムの適切な運用・管理により川の機能の再生を目指す。 【ダム領域評価:『△』】 【評価コメント】 令和3年度は、ヒアリング(付着藻類、魚類、漁獲量(内水面))に関して「悪化傾向」、また魚類、ヒアリング(全項目)で「悪い状態」の評価があったが、その他の項目は概ね「普通状態」が維持されていることから、ダム領域は総合的に「△」と評価される。					
		19.写真観測(ダム流木到達状況)	28		今年度調査未実施のため、今回WGでの評価対象外	-	-							
	(13)利水設備の機能障害	27.流木処理実績	27		令和2年度は、至近3年間の変動幅の範囲内にあることから「維持傾向」と評価される。基準年と比較すると「良い状態」と評価される。(参考:令和2年度評価)	B	a	○						
		19.写真観測(ダム流木到達状況)	28		今年度調査未実施のため、今回WGでの評価対象外	-	-							
	(14)生物生息生育環境の変化	1.水質	33		今年度調査未実施のため、今回WGでの評価対象外	-	-	×						
		6.魚類	39		全体の種数・個体数の大きな変化がみられないことから、「維持傾向」と評価される。漁協ヒアリングにおいて複数の漁協から「悪い状態」の回答を得た。	B	c							
		7.底生動物	41		ダム貯水池内の底生動物は、総合的に「維持傾向」と評価される。	B	-							
		8.付着藻類	43		今年度調査未実施のため、今回WGでの評価対象外	-	-							
		30.ヒアリング	45		漁協ヒアリングにおいて「悪化傾向」および「悪い状態」の回答を得た。	C	c							
		6.漁獲量(内水面)	46		漁獲量の方向性は、至近3年間と比較すると「維持傾向」と評価される。漁獲量の状態は、漁協ヒアリングの結果、全ての漁協から「悪い状態」の回答を得たことから、「悪い状態」と評価される。(参考:方向性は、令和2年度評価)	B	c							
	(15)生物生息空間の連続性遮断	2.河床材料	49		河床材料の粒度分布は、大きな変化が見られないことから、方向性は「維持傾向」と評価される。漁協ヒアリングにおいて「悪い状態」の回答を得た。	B	c	×						
		6.魚類	51		全体の種数・個体数の大きな変化がみられないことから、「維持傾向」と評価される。漁協ヒアリングにおいて複数の漁協から「悪い状態」の回答を得た。	B	c							
7.底生動物		52		地点により、種数や生息密度等の変動はあるものの、全体で見ると至近3回と同程度であり、総合的に「維持傾向」と評価される。	B	-								

着色凡例

	: 治水面 (防災面)
	: 利水面 (水利用面)
	: 環境面

個別評価凡例

【方向性】 A : 改善傾向, B : 維持傾向, C : 悪化傾向
 【状態】 a : 良い状態, b : 普通状態, c : 悪い状態

評価凡例

○ : 問題なく良いレベル
 △ : 普通のレベル
 × : 問題があり悪いレベル

※1 ワーキングでの個別評価を、評価・改善委員会での事務局案とする。
 ※2 ワーキングでの問題・課題に対する評価を、評価・改善委員会での事務局案とする。

問題・課題評価シート【河道領域】

領域	総合土砂管理上の問題・課題	モニタリング項目	説明頁	主従関係	ワーキング時点での事務局案			ワーキンググループの評価					
					評価結果の概要	個別評価		総合評価	事務局案に対する意見等	個別評価※1		評価※2	
						方向性	状態			方向性	状態		
河道領域	(16)付着藻類の変化	8.付着藻類	2		今年度調査未実施のため、今回WGでの評価対象外	-	-	x					
		30.ヒアリング	4		付着藻類の変化に関する漁協ヒアリングにおいて、「悪化傾向」の回答があった。状態は、ヒアリングにおいて、「悪い状態」と評価される。	C	c						
	(17)河川景観の変化	17.写真観測(自然景観)	6		河川景観は、前年度から大きな変化はなく、「維持傾向」と評価される。河川特性評価シートによると、「普通状態」と評価される。	B	b	△					
		17.写真観測(親水景観)	6		親水景観は、前年度から大きな変化はなく、「維持傾向」と評価される。親水景観評価シートによると、「良い状態」と評価される。	B	a						
	(18)生物生態生育環境の変化	1.水質	29		今年度調査未実施のため、今回WGでの評価対象外	-	-						
		2.河床材料	35		河床材料は、各河川区間ともに大きな変化が見られないことから、方向性は「維持傾向」と評価される。河床材料の状態は、漁協ヒアリングにおいて、「悪い状態」と評価される。	B	c						
		4.河道形状	37		河道形状は、至近3年間と比較すると、「悪化傾向」と評価される。状態は、ヒアリングにおいて、河道領域全体では概ね「悪い状態」との回答であった。	C	c						
		6.魚類	41		全体の種数・個体数及びカマツカの数には大きな変化がみられないが、アユについては減少している。またアユ産卵床は至近3年間の変動幅を下回ることから、総合的に「悪化傾向」と評価される。漁協ヒアリングにおいて複数の漁協から「悪い状態」の回答を得た。	C	c						
		7.底生動物	46		底生動物全体の種数は秋季で減少傾向であるが、底生動物全体の個体数は夏季で増加傾向である。また、ヤマトヒゲラ科(生息密度)及び造網型指数は至近3回の変動幅の範囲内にあることから、総合的に「維持傾向」と評価される。	B	-	x					
		8.付着藻類	48		今年度調査未実施のため、今回WGでの評価対象外	-	-						
		9.河岸植生	49		今年度調査未実施のため、今回WGでの評価対象外	-	-						
		29.水質、底生動物	51		方向性は、至近3年間の変動幅の範囲内にあることから「維持傾向」と評価される。状態は、平均点が3.83点であるため、「良い状態」と評価される。	B	a						
		30.ヒアリング	53		生物生態生育環境に関して、方向性は「悪化傾向」、状態は、「悪い状態」の回答が多かった。	C	c						
		6.漁獲量(内水面)	54		方向性は、至近3年間(平成29～令和元年度)と比較すると「悪化傾向」と評価される。状態は、漁協ヒアリングにおいて複数の漁協から「悪い状態」の回答を得た。(参考:方向性は、令和2年度評価)	C	c						
	(19)瀬・淵の消失	4.河道形状	57		瀬・淵の数は、至近3年間と比較すると、「悪化傾向」と評価される。状態は、ヒアリングにおいて、河道領域全体ではおおむね「悪い状態」との回答であった。	C	c	x					
	(20)橋脚の不安定化	5.河道縦横断	59		橋脚基礎は、前年度と比較して大きな変化は見られず、問題も生じていないことから「維持傾向」及び「普通状態」と評価される。	B	b	△					
		18.写真観測(河川状況、構造物基礎)	59		橋脚基礎の状況に大きな変化は見られず、安全性に関して大きな問題は無い。	-	-						
	(21)護岸基礎部の被災	5.河道縦横断	64		護岸基礎部は、前年度と比較して大きな変化は見られず、問題も生じていないことから「維持傾向」及び「普通状態」と評価される。	B	b	△					
		18.写真観測(河川状況、構造物基礎)	64		護岸基礎部の状況に大きな変化は見られず、護岸基礎部の安定性は確保されている。	-	-						
	(22)取水の不安定化	1.水質	70		水質の方向性は、至近3年間の変動幅の範囲内にあることから「維持傾向」と評価される。状態は、基準値の範囲内であることから「良い状態」と評価される。	B	a						
5.河道縦横断		71	主	富島幹線水路は、大きな変化は見られないが、前年度同様、ポンプアップによる取水を行なっていることから「維持傾向」及び「悪い状態」と評価される。	B	c	△						
24.写真観測(取水口堆砂状況)		71		取水口付近の状況に大きな変化は見られない。	-	-							
(23)治水安全度低下	5.河道縦横断	74		対象箇所全体の河積変化率は、至近3年間と比較すると、「維持傾向」と評価される。状態は、基準年と比較すると、「普通状態」と評価される。	B	b	△						
	18.写真観測(河川状況、構造物基礎)	81		河川状況や構造物基礎の状況の大きな変化は見られない。	-	-							
(24)氾濫発生時の被害拡大	31.水害統計資料	98		近年、河川の浸水被害は発生していないことから「維持傾向」及び「普通状態」と評価される。	B	b	△						
	20.写真観測(洪水時流下状況)	99		今年度調査未実施のため、今回WGでの評価対象外	-	-							

着色凡例

黄色	: 治水面(防災面)
水色	: 利水面(水利用面)
緑色	: 環境面

個別評価凡例

【方向性】A:改善傾向, B:維持傾向, C:悪化傾向
【状態】a:良い状態, b:普通状態, c:悪い状態

評価凡例

○:問題なく良いレベル
△:普通のレベル
x:問題があり悪いレベル

※1 ワーキングでの個別評価を、評価・改善委員会での事務局案とする。
※2 ワーキングでの問題・課題に対する評価を、評価・改善委員会での事務局案とする。

問題・課題評価シート【河口・海岸領域】

領域	総合土砂管理上の問題・課題	モニタリング項目	説明員	主従関係	ワーキング時点での事務局案			ワーキンググループの評価						
					評価結果の概要	個別評価		総合評価	事務局案に対する意見等	個別評価※1		評価※2		
						方向性	状態			方向性	状態			
河口・海岸領域	(25) 生物生態生育環境の変化	1. 水質 (海域: 出水時)	3		今年度調査未実施のため、今回WGでの評価対象外	-	-	×	【河口・海岸領域目標】 水系一貫した土砂の適正管理による持続可能な河口・海岸領域の保全を目指す。					
		3. 底質 (海域: 出水時)	7		今年度調査未実施のため、今回WGでの評価対象外	-	-							
		6. 漁獲量 (海域)	9		漁獲量(海域)は、至近3年間の変動幅の範囲内にあることから、「維持傾向」と評価される。状態は、日向市漁協へのヒアリングにおいて「悪い状態」の回答であった。	B	c							
		6. 漁獲量 (内水面)	9		漁獲量(内水面)は、至近3年間の変動幅の範囲内にあることから、「維持傾向」と評価される。状態は、日向市漁協へのヒアリングにおいて「悪い状態」の回答であった。(参考: 方向性は令和2年度評価)	B	c							
		7. 底生動物 (海域: 出水時)	11		今年度調査未実施のため、今回WGでの評価対象外	-	-							
		10. 藻場 (海域)	13		至近3年間と比較して分布範囲、密生部分に大きな変化はないことから「維持傾向」と評価される。状態は、ヒアリングにおいて「普通状態」の回答であった。	B	b							
	(26) 防災機能の低下	28. 航空写真 (汀線比較)	18		今年度調査未実施のため、今回WGでの評価対象外	-	-	-						
	(27) 親水空間の減少	17. 写真観測 (景観・親水)	21		海岸の親水景観に大きな変化は見られない。	-	-	-						
		28. 航空写真 (汀線比較)	23		今年度調査未実施のため、今回WGでの評価対象外	-	-	-						
	(28) 港湾施設の埋没	25. 土砂除去量 (河道・河口海岸)	26		令和3年度は、至近3年間の変動幅の範囲内にあることから「維持傾向」と評価される。基準年と比較すると、変動幅の範囲内にあることから「普通状態」と評価される。	B	b	△						
	(29) 治水安全度低下	5. 河道縦横断	29		河積変化率の平均は、至近3年間の変動幅を下回ることから「悪化傾向」と評価される。基準年と比較すると「普通状態」と評価される	C	b	×						
	(30) 船舶の航行(操業上)の支障	5. 河道縦横断	34		航路深さは至近3年間と比較し、変動幅を下回ることから「悪化傾向」と評価される。必要深さは100%確保されていないことから「悪い状態」と評価される。	C	c	△		【評価コメント】 令和3年度は、河道縦横断に関して「悪化傾向」、また漁獲量(海域)、漁獲量(内水面)、河道縦横断に関して「悪い状態」の評価があったが、その他の項目は概ね「普通状態」が維持されていることから、河口・海岸領域は総合的に「△」と評価される。				
		25. 土砂除去量 (河道・河口海岸)	35		令和3年度は、至近3年間の変動幅の範囲内にあることから「維持傾向」と評価される。基準年と比較すると、変動幅の範囲内にあることから「普通状態」と評価される。	B	b							
		20. 写真観測 (洪水時流下状況)	36		今年度調査未実施のため、今回WGでの評価対象外	-	-							
		21. 写真観測 (海域漂流状況)	36		今年度調査未実施のため、今回WGでの評価対象外	-	-							
		22. 写真観測 (海岸漂着状況)	36		今年度調査未実施のため、今回WGでの評価対象外	-	-							
		26. 漂着物量 (河道・河口海岸)	38		令和3年度は、至近3年間の変動幅の範囲内であることから「維持傾向」と評価される。状態は、日向市漁協へのヒアリングにおいて「普通状態」の回答であった。	B	b							
		30. ヒアリング	39		流木漂着等による船舶の航行の支障は、日向市漁協へのヒアリングの結果、「維持傾向」及び「普通状態」の回答であった。	B	b							
	(31) 海岸環境悪化	22. 写真観測 (海岸漂着状況)	42		今年度調査未実施のため、今回WGでの評価対象外	-	-	△						
		26. 漂着物量 (河道・河口海岸)	43		令和3年度は、至近3年間の変動幅の範囲内にあることから「維持傾向」と評価される。状態は、日向市漁協へのヒアリングにおいて「普通状態」の回答であった。	B	b							
(32) 漁業(操業)の支障	26. 漂着物量 (河道・河口海岸)	46		令和3年度は、至近3年間の変動幅の範囲内にあることから「維持傾向」と評価される。状態は、日向市漁協へのヒアリングにおいて「普通状態」の回答であった。	B	b	△							
	22. 写真観測 (海岸漂着状況)	47		今年度調査未実施のため、今回WGでの評価対象外	-	-								
	20. 写真観測 (洪水時流下状況)	48		今年度調査未実施のため、今回WGでの評価対象外	-	-								
	6. 漁獲量 (海域)	49		令和3年度は、至近3年間の変動幅の範囲内にあることから、「維持傾向」と評価される。状態は、日向市漁協へのヒアリングにおいて「悪い状態」の回答であった。	B	c								
(33) 氾濫発生時の被害拡大	31. 水害統計資料	52		近年、河川の浸水被害は発生していないことから、「維持傾向」及び「普通状態」と評価される。	B	b	△							
	20. 写真観測 (洪水時流下状況)	53		今年度調査未実施のため、今回WGでの評価対象外	-	-								

着色凡例

	: 治水面 (防災面)
	: 利水面 (水利用面)
	: 環境面

個別評価凡例

【方向性】 A: 改善傾向, B: 維持傾向, C: 悪化傾向
 【状態】 a: 良い状態, b: 普通状態, c: 悪い状態

評価凡例

○: 問題なく良いレベル
 △: 普通のレベル
 ×: 問題があり悪いレベル

※1 ワーキングでの個別評価を、評価・改善委員会での事務局案とする。
 ※2 ワーキングでの問題・課題に対する評価を、評価・改善委員会での事務局案とする。

「耳川通信簿」 耳川流域全体（令和3年度）

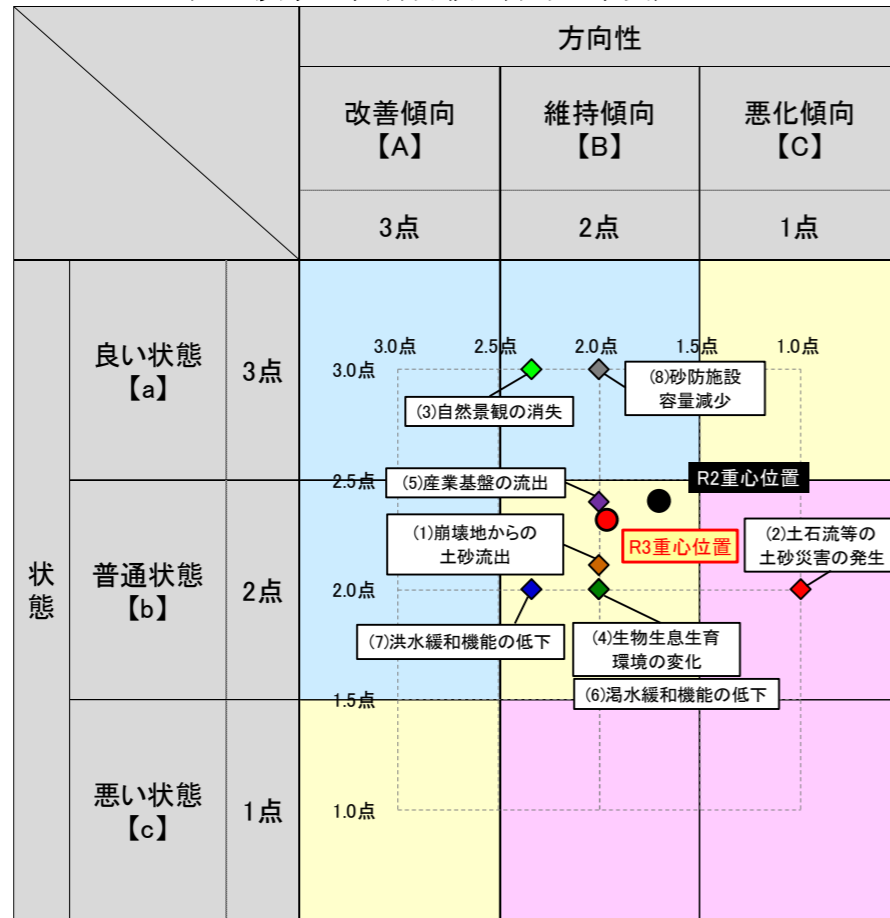
資料	領域	総合土砂管理上の問題・課題	事務局評価		領域の評価	評価・改善委員会の評価
資料③-1	山地領域	(1) 崩壊地からの土砂流出	△	【山地領域目標】 森林保全や治山・砂防の推進により、土砂・流木の流出制御を目指す。 【評価コメント】 方向性については、土砂災害発生件数、ヒアリング（産業基盤の流出）に関して「悪化傾向」であったが、その他の項目は概ね「維持傾向」となり、総合的に「維持傾向」と評価される。 状態については、ヒアリング（崩壊地からの土砂流出、産業基盤の流出）で「悪い状態」であったが、その他の項目では概ね「普通状態」となり、総合的に「普通状態」と評価される。 以上のことから、山地領域は総合的に「△」と評価される。	△	○ △ ×
		(2) 土石流等の土砂災害の発生	×			
		(3) 自然景観の消失	○			
		(4) 生物生息生育環境の変化	△			
		(5) 産業基盤の流出	△			
		(6) 渇水緩和機能の低下	△			
		(7) 洪水緩和機能の低下	△			
		(8) 砂防施設容量減少	○			
資料③-2	ダム領域	(9) 貯水池末端部治水安全度低下	△	【ダム領域目標】 土砂移動の連続性を回復させ、ダムの適切な運用・管理により川の機能の再生を目指す。 【評価コメント】 方向性については、ヒアリング（付着藻類、魚類、漁獲量（内水面））に関して「悪化傾向」であったが、その他の項目は概ね「維持傾向」となり、総合的に「維持傾向」と評価される。 状態については、魚類、ヒアリング（全項目）で「悪い状態」の評価があったが、その他の項目は概ね「普通状態」となり、総合的に「普通状態」と評価される。 以上のことから、ダム領域は総合的に「△」と評価される。	△	○ △ ×
		(10) 利水容量の減少	△			
		(11) 取水口の埋没	△			
		(12) 放流設備の機能障害	○			
		(13) 利水設備の機能障害	○			
		(14) 生物生息生育環境の変化	×			
(15) 生物生息空間の連続性遮断	×					
資料③-3	河道領域	(16) 付着藻類の変化	×	【河道領域目標】 適切な河川管理により、安全安心と生物多様性を実現し、人と川が親しめるよう、川の機能の再生を目指す。 【評価コメント】 方向性については、ヒアリング（付着藻類）、河道形状、魚類、漁獲量（内水面）に関して「悪化傾向」となったが、その他の項目は概ね「維持傾向」となり、総合的に「維持傾向」と評価される。 状態については、ヒアリング（河道形状、付着藻類、魚類）、河道縦横断（取水口）、漁獲量（内水面）に関して「悪い状態」の評価があったが、その他の項目は概ね「普通状態」となり、総合的に「普通状態」と評価される。 以上のことから、河道領域は総合的に「△」と評価される。	△	○ △ ×
		(17) 河川景観の変化	△			
		(18) 生物生息生育環境の変化	×			
		(19) 瀬・淵の消失	×			
		(20) 橋脚の不安定化	△			
		(21) 護岸基礎部の被災	△			
		(22) 取水の不安定化	△			
		(23) 治水安全度低下	△			
(24) 氾濫発生時の被害拡大	△					
資料③-4	河口・海岸領域	(25) 生物生息生育環境の変化	×	【河口・海岸領域目標】 水系一貫した土砂の適正管理による持続可能な河口・海岸領域の保全を目指す。 【評価コメント】 方向性については、河床縦横断に関して「悪化傾向」となったが、その他の項目は概ね「維持傾向」となり、総合的に「維持傾向」と評価される。 状態については、漁獲量（海域）、漁獲量（内水面）、河道縦横断に関して「悪い状態」の評価があったが、その他の項目は概ね「普通状態」となり、総合的に「普通状態」と評価される。 以上のことから、河口・海岸領域は総合的に「△」と評価される。 なお、(29) 治水安全度の低下については、令和3年度の河積変化率の平均は、平成24年度を基準とすると99%と1%少ない程度であり、治水安全度として問題はないと考えられる。	△	○ △ ×
		(26) 防災機能の低下	-			
		(27) 親水空間の減少	-			
		(28) 港湾施設の埋没	△			
		(29) 治水安全度低下	×			
		(30) 船舶の航行（操業上）の支障	△			
		(31) 海岸環境悪化	△			
		(32) 漁業（操業）の支障	△			
(33) 氾濫発生時の被害拡大	△					
		総合評価	【耳川水系目標】 耳川をいい川にする 【評価コメント】 令和3年は、山地領域、ダム領域、河道領域、河口・海岸領域ともに普通レベルであり、耳川水系全体として、総合的に普通レベル「△」と評価される。 しかしながら、悪い評価の問題・課題が見られることから、今後も引き続きモニタリングを継続しながら、各種行動計画を推進していく必要がある。		△	○ △ ×

着色凡例

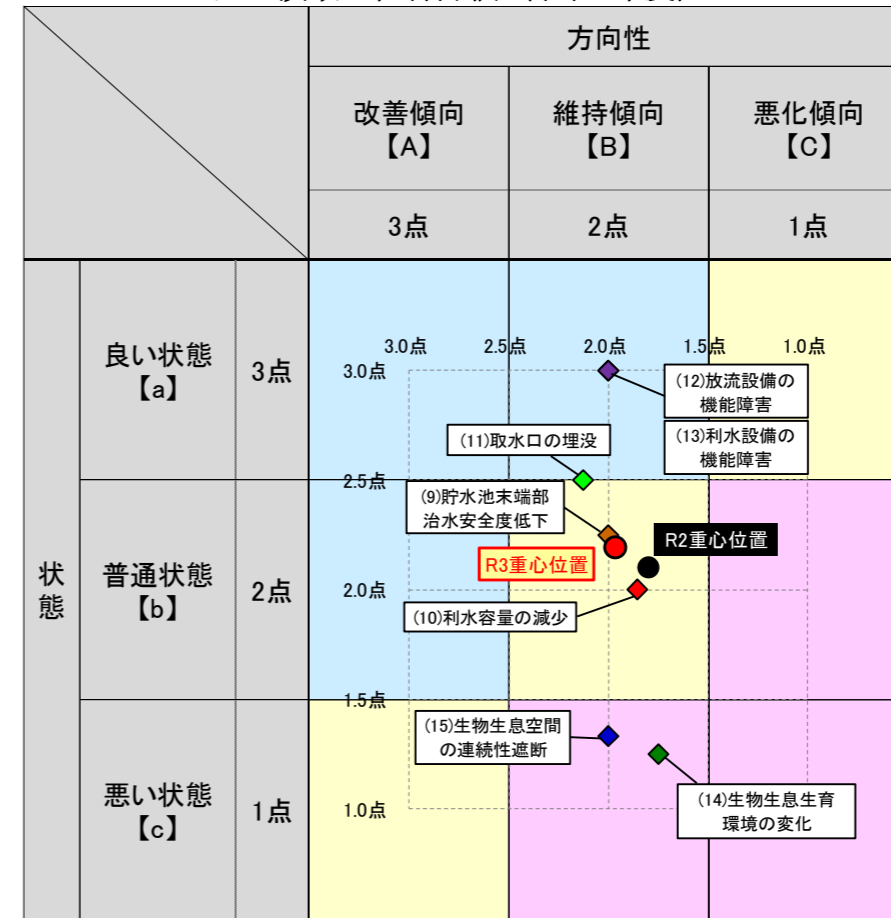
	: 治水面（防災面）
	: 利水面（水利用面）
	: 環境面

課題評価の凡例	
○	: 問題なく良いレベル
△	: 普通のレベル
×	: 問題があり悪いレベル

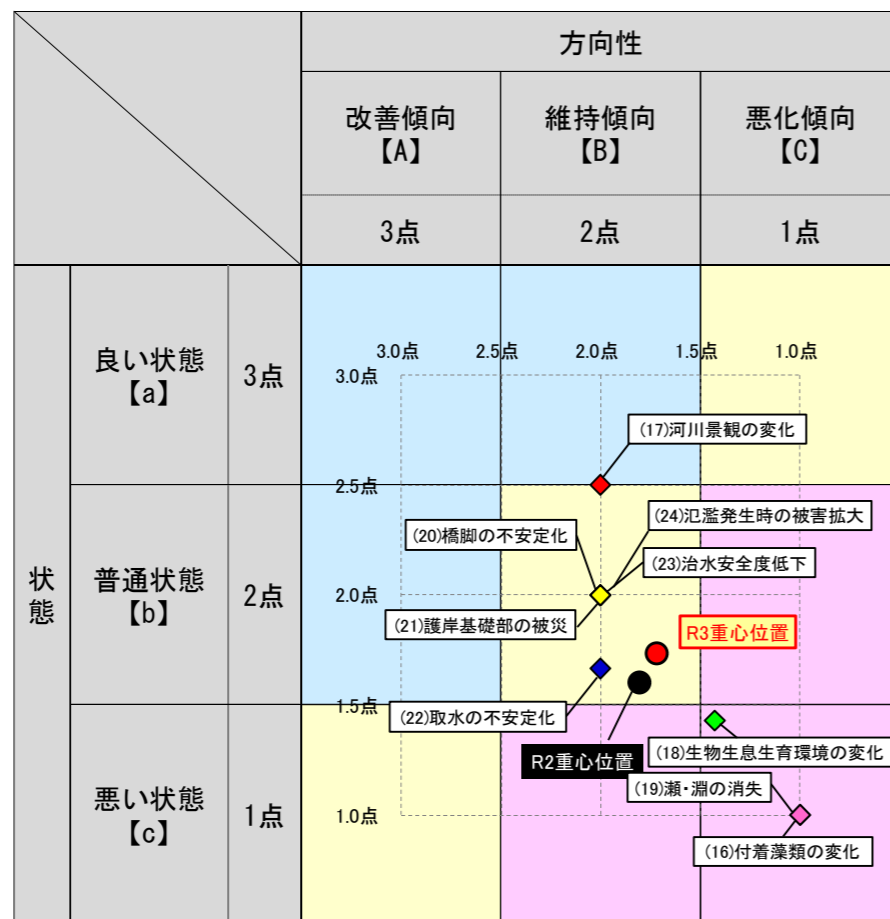
山地領域の総合評価（令和3年度）



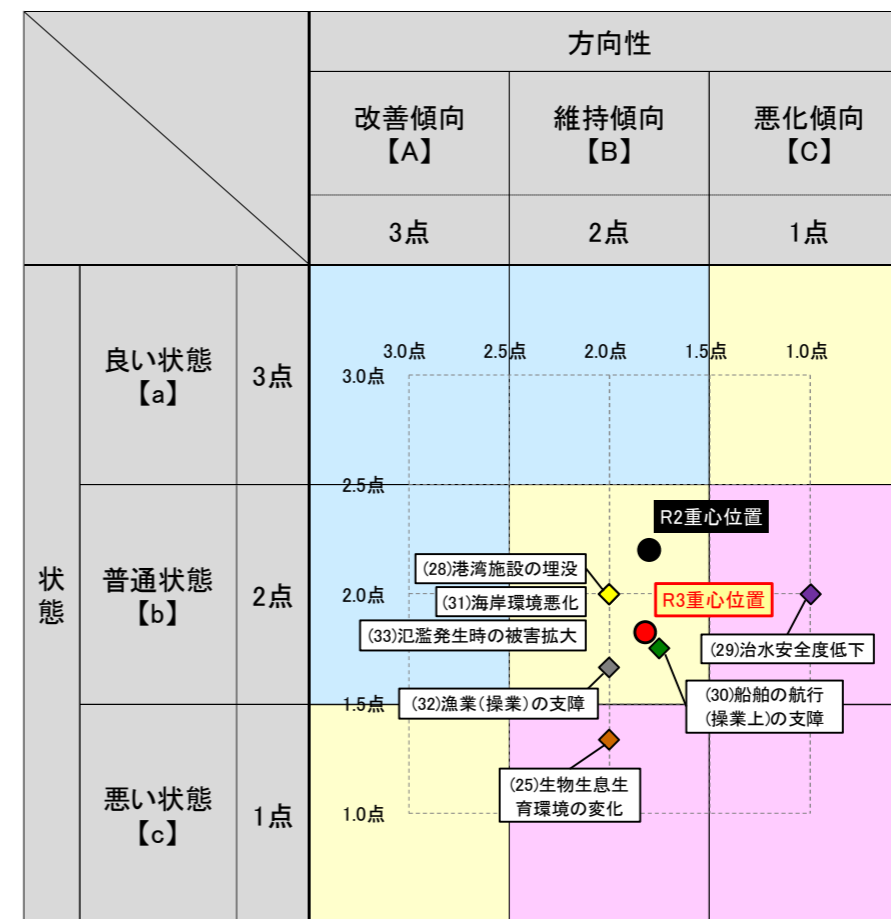
ダム領域の総合評価（令和3年度）



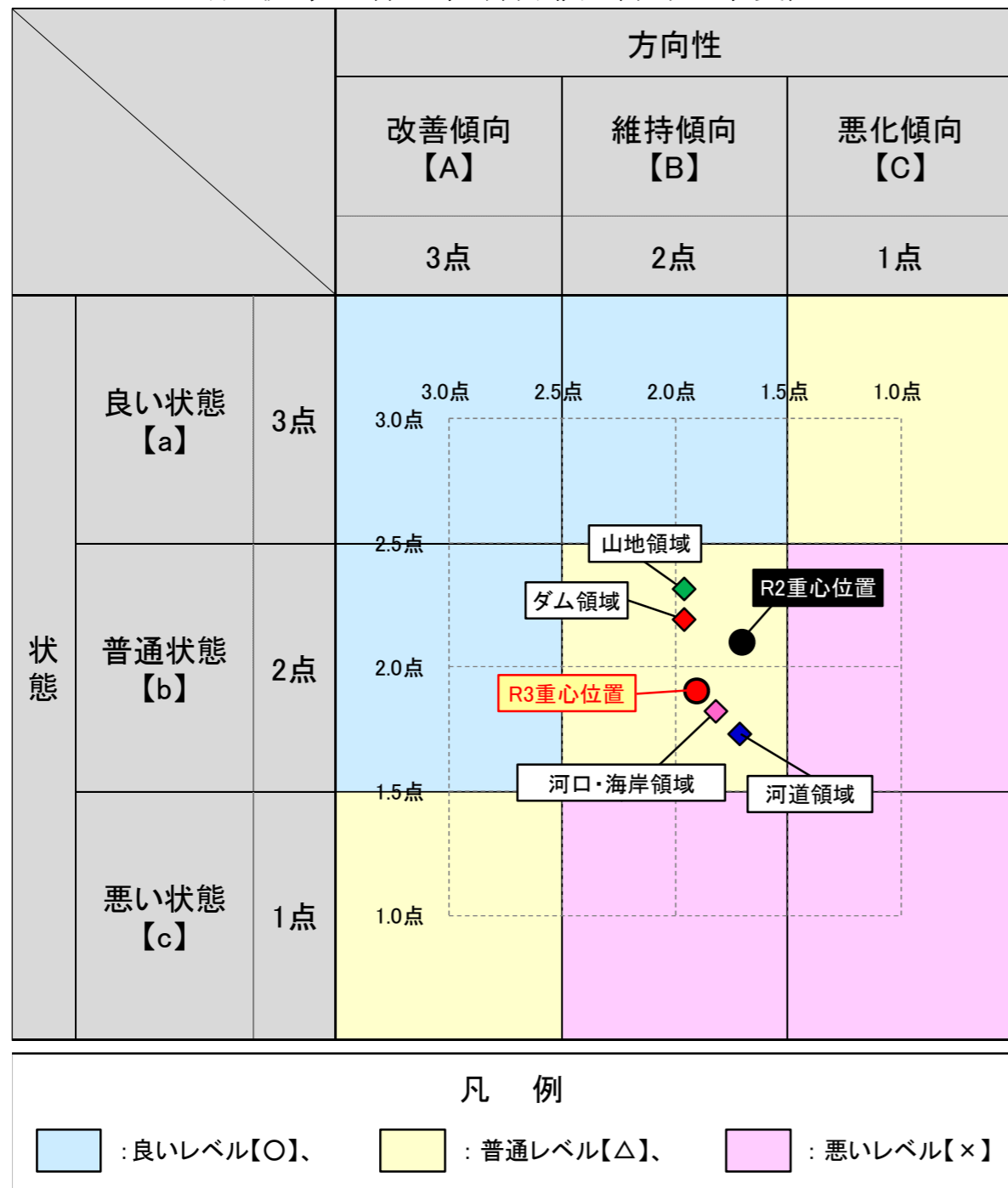
河道領域の総合評価（令和3年度）



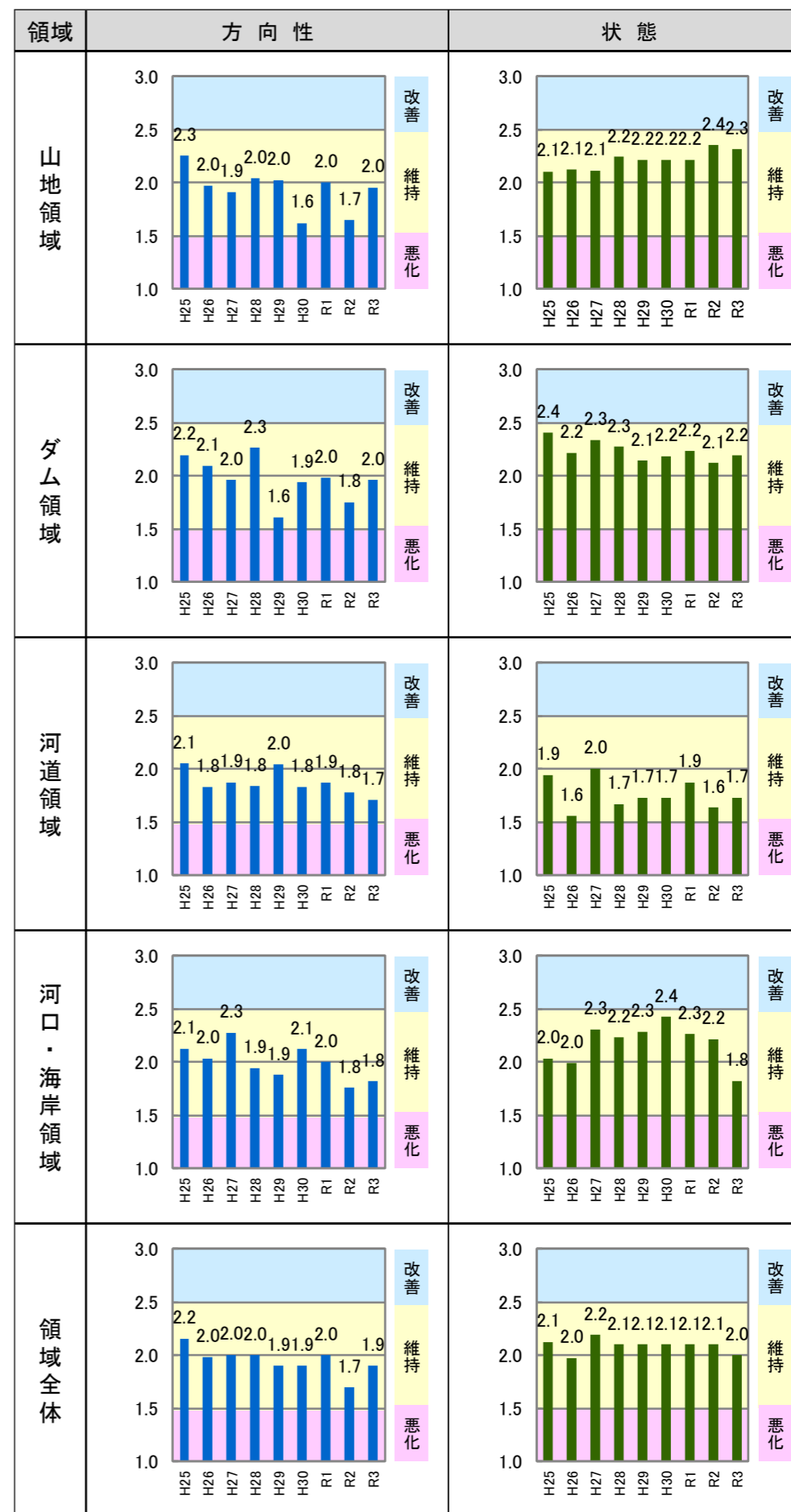
河口・海岸領域の総合評価（令和3年度）



耳川流域全体の総合評価（令和3年度）



注1) グラフは領域ごとの評価結果をプロットしている。
 注2) 重心位置は、これらの評価結果の総合的な位置付けを示したものである。



注) 評価手法を改良しているモニタリング項目があるため、正確に経年変化を捉えていないケースがある。